

「(仮称) 町田市都市づくりのマスタープラン」策定に関する特別委員会 第9回 議事概要

1. 開催日時 2021年7月21日(水) 午後3時00分～午後4時50分
2. 開催場所 町田市庁舎3階第1委員会室 及び リモート会議(webex)
3. 出席者

＜委員＞

野澤 康委員長※、市古 太郎副委員長※、中西 正彦委員※、村山 顕人委員※、岡村 敏之委員※、
薬袋 奈美子委員※、寺田 徹委員※、高橋 清人委員※、森本 誠委員※、名取 浩介委員、
前田 智也委員、新倉 敏和委員※、森山 健司委員※、西村 靖生委員※、山田 勉委員※、
露木 輝久委員

※リモート出席(webex)

＜事務局＞

都市づくり部長、都市整備担当部長、都市政策課長、多摩都市モノレール推進室長、
交通事業推進課長、地区街づくり課長、住宅課長、公園緑地課長、公園管理担当課長、他各課担当

4. 傍聴者 1名
5. 次第

- (1) 市からの論点説明・議論
- (2) 議論の総括

6. 議事内容

(1) 市からの論点説明・議論

●(仮称) 町田市都市づくりのマスタープラン(原案)について

(野澤委員長)

- ・本日出された意見については、委員長預かりとし、適切に最終報告に反映させていくこととしたい。
- ・前回は方針編を中心に議論した。修正意見をいただいた部分や記載が不十分だった内容は、各分野を担当されている学識先生方と調整のうえ、資料に反映されている。時間の都合上、事務局からは前回からの変更点を中心に説明いただき、また改めて全体を俯瞰して最終確認いただきたいと思います。
- ・後半は、マスタープランの実現に向けて、市に対する皆様からアイデアやアドバイス、あるいはこの委員会の感想を含めてお話いただく時間をとりたいと考えている。

＜事務局より資料1、参考資料を用いて説明＞

(野澤委員長)

- ・ご意見をいただく前に、各分野を担当した学識の先生方から補足も含めてコメント頂きたい。

(村山委員)

- ・都市計画については、特に土地利用の複合の議論をした。実際の都市計画法は複合を位置づけているものではないので、可能な範囲でマスタープランに目指すべきビジョンを書いて、それを上手く都市計画の法制度に展開していくという整理ができたかと思っている。写真やイメージスケッチも良いものを入れていただいた。

(岡村委員)

- ・交通については、生活圏内を重視していくつくりが貫かれたので、中々良いと思っている。
- ・74頁の「施策の全体像」において、環境配慮など、自家用車に過度に頼らないといった観点の記述が薄い。後ろの方にはキーワードが入っているので、もう少し表に出ても良いという印象を持った。

(葉袋委員)

- ・住まいについては、大きく変わった訳ではないが、丁寧に事務局でも確認いただき整理できた。生活の行為を受け止める空間としての都市をどう作っていき、再生していくかという観点から文言が整理された。住み続けや空家対策、団地再生とうまく連携できた内容になっていると思う。

(寺田委員)

- ・みどりについては、斜面緑地におけるみどりの適正管理の記述を追加した。この間、熱海の土砂災害もあり、盛土の話も前回ご指摘があったが、今後20年スパンで見たときに、みどりでも防災の視点を強調しておくべきかと思う。町田は地形が豊かなところに住宅地を造っており、人命にかかわる災害の可能性もあるので、特に急傾斜地に指定されているところのみどりは、防災上気をつけて管理する必要があるというメッセージをここに加えている。

(野澤委員長)

- ・災害の話が出たが、市古副委員長から防災について何かコメントあればお願いしたい。

(市古副委員長)

- ・事前に事務局と全体を通して意見交換させていただいた。2点ほど気になるところがある。
- ・1つは、方針編（住まい）の施策Ⅰの取組の方向性②に使われている「防火性」は、耐震と合わせるならば「耐火性」としても良いかと思う。また、頻発・激甚化しているのは気象災害なので、ここにも「耐水性」を入れる時代かという気もする。

(野澤委員長)

- ・耐水性はこのような場面でも使う言葉なのか。

(市古副委員長)

- ・最近技術開発も進んでいる。町田のような戸建住宅地については、日本建築学会の昨年6月の答申で体系的に言葉の整理をしたので、耐水性という言葉を使って良いと思う。
- ・もう1点事務局に確認したいが、事前に指摘した浸水リスクに関する記述は、リーディングプロジェクトの町田駅周辺のところに入るのか。

(事務局)

- ・62頁の方針編（都市計画）の中で、＜雨水管渠・貯留施設等の整備＞の3点目にご指摘いただいた内容を反映している。

(市古副委員長)

- ・市民としては一番気になるのは町田駅周辺の浸水だが、治水安全度の向上によって浸水域と浸水深がどれだけ変化するか、オープンにされた資料は見たことがないので、62頁に書いていただいたならば承知した。

(野澤委員長)

- ・分野横断的に、個々の施策とプロジェクトの関係を見ていただいていた中西委員から何かコメントがあればお願いしたい。

(中西委員)

- ・ 129頁の施策とプロジェクトの関係の表を改めて見ると、プライオリティのようなものが出ると良いかもしれないと思った。直すのも大変なので、可能な限り工夫して頂ければと思う。
- ・ 44頁の一番下にある六角形の図は、これで網羅できているか危うい。URやJKKはどこに入るのか。企業とも行政とも言えるし、「企業」を「事業者」にすれば該当する。「市民」「ボランティア」「地域活動団体」はどう違うのかなど、細かい部分が気になる。このような図を記載する趣旨自体は問題無いが、可能であればこの6つで良いのかも一度確認いただければと思う。

(事務局)

- ・ 中西委員から指摘いただいた協働の図については、市民協働部門と相談し、町田市は「共創」という言葉を使っていることが特徴であることから、その点を直した。ご指摘いただいた通り「企業」とURやJKKが読みづらいので、言葉の表現を見直したいと思う。
- ・ 岡村委員からいただいた意見はその通りだと思うので、基本的な考え方の中で環境の視点をもう少し表現できるように修正したい。

(野澤委員長)

- ・ ここからは、内容について他の委員も含めてご意見いただければと思う。

(新倉委員)

- ・ 冒頭4頁の「町田市の他の計画」のところに、できれば「町田市農業振興計画」も入れていただきたい。

(事務局)

- ・ 対応を検討する。

(野澤委員長)

- ・ スペースがあるので、もう少し書けるものは書いたほうが良いのかもしれない。

(寺田委員)

- ・ I章ビジョン編の「将来のまちの“かたち”と“つくり”」で、暮らしの図を“かたち”という、どうしてもフィジカルなものを思い浮かべてしまうが、皆さんは納得されているか、率直にご意見をうかがいたい。どういう様態であるかというソフトのイメージだと思うので、代替案として、例えばまちの“もよう”などはどうか。こういう活動や生活がされているまちを目指すといった意味で、4パターンの暮らしのイメージと、暮らしのかなめが描きこまれているが、それを“かたち”という、説明が必要になる。上位のビジョンなので、あまり説明の必要ない3文字があれば良いと思う。
- ・ 「暮らしの図」は、拠点とは別に、暮らしを実現する場として「かなめ」という言葉も多く使われているので、「暮らしとかなめの図」であるように思う。

(野澤委員長)

- ・ まちの“くらし”だと変になってしまう。事務局としてはどうか。

(事務局)

- ・ 事務局としてのアイデアは出尽くしたといった状況である。

(薬袋委員)

- ・ ひらがな3文字を諦めるのはいけないか。

(事務局)

- ・ 3文字が絶対のルールではない。

(葉袋委員)

- ・まちの暮らしを支える場という意味合いだろう。

(寺田委員)

- ・「かたち」「つくり」にこだわらず、「暮らしを支える場」「拠点」「軸」と直接言ってしまうても良いかもしれない。

(葉袋委員)

- ・色々な単語が出てくると、その都度定義が必要になる。

(野澤委員長)

- ・良い案があれば委員会内で発言いただくか、後日でも良いのでメールで提案いただければありがたい。

(前田委員)

- ・6 9 頁の「大規模団地の再生・再編とあわせた多機能化」の中で「大規模団地の建替えの際には」という記述があるが、全部を建て替えるイメージを持たれてしまう可能性がある。再生・再編には建替え以外の選択の余地があり、方針編（住まい）には改修、建替え、集約という言葉があるので、そちらと合わせた記載をご検討いただければと思う。

(岡村委員)

- ・先程指摘した環境配慮の件は、生活圏内の移動で自動車が卓越してしまうところをそうでない方向にすることが根本にある。そういうところが表現から消えているのは、強制的に車をやめると捉えられてしまうと合意形成上良くないということだと思うが、自動車以外の手段を充実させる中で、自然とそれらが選ばれて、より環境にやさしい移動にシフトしていこうという趣旨である。「ビジョンの実現に向けた基本的な考え方」の1つ目で、「気軽に好きな方法で行ける」としているのはその通りだが、自動車を好きに使えるとも読まれてしまう。後ろの方では環境にやさしい交通体系の話もしているので、例えば「気軽に環境にやさしい方法で行ける」というような記述があるだろう。
- ・7 7 頁の取組の方向性①で、「自家用車に限らず」というのは、色々な意味に取れてしまう。「自動車に過度に頼りすぎず」と書いたほうがストレートで分かりやすい。事務局で預かっていただければと思う。

(事務局)

- ・承知した。

(村山委員)

- ・5 2 頁の「低層住宅地」の記述の最後に、「地域のニーズに応じて、小規模な店舗や医療・福祉施設、ワークスペース等の生活利便施設の誘導を検討します。」と書いてある。これは例えば第一種低層住居専用地域にコンビニの立地を許すというようなことと関係するが、暮らしのかなめが後背地に住宅地を抱えて色々な施設が集まる場所として構想されている部分もあり、本当に低層住宅地でこのような施設を誘導して良いのか賛否両論あると思うが、事務局の中でどのように議論していたか。

(野澤委員長)

- ・「検討します」なので、全ての低層住宅地でそのようにするというわけではないということか。

(事務局)

- ・一様にどこでも許容するイメージではない。委員会前半の議論でもあったように、これからは低層住宅地の中でも一定程度テレワーク等に対応していけるように、暮らしのかなめのレベルよりも小規模な施設の立地は検討して良いのではないかと議論した。

(村山委員)

- ・「地域のニーズに応じて」と「検討します」と書いてあるので、全てのところではないと理解した。実際にコンビニが立地すると、自家用車が増え、配達のトラックが静かな住宅地に入ってきて子どもの交通環境が阻害されるという問題もあり、全員が賛成するわけではなく合意形成が必要。地域のニーズに応じて対応するということで良いと思う。

(野澤委員長)

- ・土地利用方針の特別委員会でも今の議論があり、その時はマスタープランに書くという話をしていた気もする。こちらにしっかり書いていないとどちらにも書いていないことになってしまうので、必要であれば丁寧に書いたほうが良いかもしれないと思っている。

(高橋委員)

- ・4頁の全体の位置づけ図を見ると、(仮称)町田市都市づくりのマスタープランが総括的な計画になっていて、そこから落とし込まれていくのが町田市5ヵ年計画になっているが、5ヵ年計画は個別事業をどのように進めるか、予算をどう考えるかという内容の積み上げであり、5ヵ年計画で取り上げられないものは実行されないという感じもある。マスタープラン全体としてどの程度まで進捗しているのかをどこかでフォローしておかないと中々実現しないかと思うが、いかがか。

(事務局)

- ・5ヵ年計画は予算見合いで事業を重点化して位置づけるつくりになっている。重点事業に載らないものをどうするかというお話はご指摘の通りだと思う。5ヵ年計画だけがマスタープランの実行計画に見えるような表現は見直したいと思う。

(野澤委員長)

- ・上位計画はいっぱい書いてあるが、マスタープランをどうブレイクダウンしていくかが手薄な図であるように、高橋委員からの指摘を聞いて思った。

(中西委員)

- ・4頁の図で、(仮称)町田市都市づくりのマスタープランが4つのプランを包含していることが表現されており、その最後に「など」と書いてあるが、何を指しているのか。

(事務局)

- ・マスタープラン級で言うところの4つの計画になるが、例えば方針編(交通)では「町田市便利なバス計画」を取り込んでいたり、方針編(住まい)では「町田市団地再生基本方針」や「町田市空家0計画」を取り込んでいたりするということで、「など」と表現している。

(中西委員)

- ・了解した。現行のそれらの計画は、今後個別には作られないということか。

(事務局)

- ・その通りである。

(山田委員)

- ・昨今、IT通販などの関連でラストワンマイルの物流がニーズとして高まっているが、方針編(都市計画)であまり触れられていないと感じた。
- ・方針編(交通)で、大切なワードは「利用しやすさ」や「わかりやすさ」だと思うが、その部分の記載が全体的に足りないように感じた。
- ・方針編(住まい)では、空家に頁を割いて記載していて、ウォッチングする施策や活用する施策は謳われているものの、それだけだと回っていかず、ビジネスを入れていかないと、実際の活用が進まな

い。その点の記載が不足しているように感じた。

- ・方針編（みどり）については、みどりを残して維持していくとなると、管理コストを誰がどう負担するかということになる。行政や地権者が負担するのでは継続した実現性が成立しないので、アイデアも含めて、そういう記載も必要かと思った。

（寺田委員）

- ・みどりについては、施策Ⅱと施策Ⅲが維持、管理、マネジメントにかかわる部分になっている。地権者や行政だけでみどりをマネジメントしていくことは難しいので、公園のマネジメントであれば民間の力を活用すること、すべて管理するのが難しい市街化調整区域の里山については生活の場に近ところを市民団体と連携して管理すること、あるいは資源を積極的に使うつもりで維持していくこと等を検討しなければ、適切なマネジメントができない。維持、管理、マネジメントといった言葉は今回あまり前に出して使っていないが、そうした意味合いのことは施策Ⅱと施策Ⅲに書き込んでいる。

（事務局）

- ・方針編（都市計画）の身近な物流については、主要な通り沿いの暮らしのかなめに身近な物流機能を置いていくイメージになると思うので、検討してみたいと思う。

（岡村委員）

- ・物流は交通計画に入りにくいので、都市計画で受けていただければと思う。
- ・分かりやすさについては、バスや交通結節点の使いやすさがあまり入っていないというのはそうだと思うつつ、個々の記述としては入ると思う。マスタープランは分かりやすさや使いやすさの手前の部分に取り組むつくりになっていて、分かりやすさはブレイクダウンした計画で前面に出てくるものになるかと思う。事務局で一旦受け止めていただきつつ、個々の計画で反映するという対応もあるかと思う。

（薬袋委員）

- ・空家については、フレキシブルに考えなければいけない。決め込み過ぎず、余地を残しておくくらいで良い。実際の新しい取組は、偶然の中から色んなチャンスがあって実現したものも多い。そのような時に制約をかけないようにできればと思う。

（野澤委員長）

- ・あまり具体的に書きすぎると硬直化して何もできなくなる危険性もあるので、加減は考えないといけない。

（薬袋委員）

- ・特に、担当者が変わったりすると、「ここに書いてあるこれをやることになっているので」という表現になっていってしまう。

（事務局）

- ・薬袋委員からもお話いただいたように、具体的に書き過ぎないようにしている。空家のビジネスについては、当初の空家0計画の段階から、不動産流通を軸に考えている。町田市では、空家が流通に乗ればまだ回っていくと考えていて、所有者が流通に乗せる気になるような施策に取り組みたい。計画上はボリューム感が見えないところがあるが、進み具合に合わせて強弱も検討したいと考えている。

（野澤委員長）

- ・一通りご意見はいただいたので、さらに必要な加筆修正等は、委員長預かりとして事務局と一緒に進めていきたいと思う。

●マスタープランの策定・運用について

(野澤委員長)

- ・残りの時間で、委員の皆様から、今後のマスタープランの推進に向けて市が注力していくべき点や事業のアイデアなどをアドバイスいただきたい。ご感想や今後に寄せる期待などを、コメントいただければと思う。

(露木委員)

- ・バス会社として交通の委員会には多数出席させていただいているが、今回は交通分野を超えた委員会ということで、中々発言できず申し訳ない。今回のマスタープランの肝となるアフターコロナや人口減少社会到来、多摩都市モノレールなど、町田市交通が今後大きな変革期にあたるので、引き続き市と連携していきたいと思っている。

(山田委員)

- ・町田市の拠点は、行政境にあったり、駅周辺に起伏があったりして TOD のまちづくりが中々できないと思っていたが、今回、モノレールの延伸を契機に、駅周辺で既存の団地を含めて TOD のまちづくりを進める土壌が初めてできていると感じている。そういう意味で、リーディングプロジェクトは、未来の町田市のために進めていく位置づけのプロジェクトであると改めて感じた。

(西村委員)

- ・町田市では薬師台や森の丘、鍾水など様々な住宅団地の開発に始まり、今は中心市街地での様々な活動をさせていただいているが、今回、様々な専門の先生方のご意見、市としての全体的な方向性を勉強させていただき、参考になった。幾つかの行政で都市計画マスタープランの委員をやっているが、今回のマスタープランは中でも革新的で、ニューノーマルの時代に向けたメッセージが入ったものになったのではないかと思っている。
- ・67頁の施策Ⅲに出ている「ウォークアブルなまちの実現」は、近年、各自治体で注目されている良い施策だが、例えば公園と道路を融合するといっても、今までは道路から「憩う」という機能は排除してきていて、法体系もきれいに出来上がっている。管理する部門も全く違い、それぞれが自分のテリトリーを守る形ができていの中で、どのように緩和するかは難しいところであり、様々なところでエリアマネジメントに取り組んでいて一番の課題になっている。市民、関係者、事業者も入って、勉強会や具体案を検討する協議会のようなものを新たに立ち上げていかないとうまく実現できないと思う。
- ・「エリアマネジメントを促進」とも書かれているが、町田市にはエリアマネジメント組織が無く、担い手は誰で、誰が育てるのか。ハコや場を用意するだけでは、エリアマネジメントの促進にはならないので、計画案を策定しながら担い手を育成していくことが、マスタープランを成功に導く一つの方法かと思う。マスタープランが改定されて、実現のために勉強会が始まろうとしている自治体もいくつかあるので、そういう取組も必要だと感じる。

(森山委員)

- ・観光関係機関として参加させていただいて、中々意見は言えなかったが、みどり、交通、住まいの各分野は観光とも関係が深いので、2040年に向けたまちづくりの中で、そうした分野とも連携しながら考えていきたい。
- ・観光協会では、市外から来たい人がいても観光バスを停める場所が無いことが問題になっている。また、ホテルや関係機関の協力を仰ぎながら市内への来訪を誘致しているが、これらは都市づくりと濃密な関係がある。委員会の序盤で出てきたフットパスについても、みどりを活かした観光として近年

盛り上がっている。都心からの近さを活かしながら、2040年に向けて観光としても都市づくりに関われるのではないかと全体を通して思った。いろいろなご意見を聴けて、非常に勉強になった。

(新倉委員)

- ・都市に農地はあるべきものという点で見直されており、景観だけでなく、防災や治水など多面的な役割を持つみどりを今後も町田市と連携してつくっていききたい。各委員のお話を聞けて参考になった。

(前田委員)

- ・イラストやコラムなどもちりばめられ、楽しく夢のある、革新的なマスタープランになった。ただし、夢を描いただけで終わらせるのではなく、実効性があるものにしなければならない。事業者の頑張りだけでなく、市の協力あってこそだと思う。
- ・JKK 東京は都内で約7万2千戸の住宅を管理しているが、そのうち約1万戸が町田市にある。立地やロケーションも様々な中で、市域全体でこの住宅ストックをどのように活用していくのか、住宅のあり方も含めて検討していくことが重要で、JKK 東京としても課題である。
- ・団地事業者として発言の機会をいただき、少なからず皆様方と考えを共有できたと思っている。今後、団地の再生に取り組む中で、町田市の目指すまちづくりに貢献できるよう、JKK 東京としても協力していきたい。住宅分野だけでない分野横断的な議論の場に参加でき、貴重な経験となった。

(名取委員)

- ・今回同席したことで、考え方など色々と勉強させていただいた。成果品はビジュアル的に踏み込んだ表現もあり、策定の目的や構成も整理されていて、私としては分かり易いと感じた。
- ・今後は、各論に入ると色々と難しい調整がたくさんある。UR 都市機構の団地が位置づけられたリーディングプロジェクトがあり、UR 都市機構としても努力をするのでご協力をお願いしたい。
- ・また、団地にお住まいの皆様と将来の絵姿を議論する場面で、このマスタープランがヒントになる部分があるので、活用させていただきたい。

(森本委員)

- ・第6回からの途中参加になったが、色々と勉強させていただいた。
- ・都市再生の視点で言うと、町田市において、向こう20年はモノレールの延伸を契機にまちが変わっていく時期だと感じている。特に町田駅周辺については、1960～70年代の建物が多く建ち、向こう10～20年で大きく建て替わっていく時期で、モノレールの延伸と建物の建て替えて、まちづくりとして重要な局面になると感じている。その中で、この都市づくりのマスタープランは事業者にとっても町田市にとっても良い形のまちづくりができるタイミングになっていると思う。
- ・町田市の駅周辺は、ハードだけでなく自然環境も持っている。ソフト的な部分も含めて、良いまちづくりができるようにUR 都市機構としても協力させていただきたい。

(高橋委員)

- ・最新の色々な考え方が勉強できた。私自身は地域でまちづくりに取り組んでいて、今後どのような地域にしたいかを地域の仲間と考えているが、これからは、このマスタープランに基づいて、さらに次の計画を具体化していくために市民の力が必要ということで、もう少し頑張っていこうと思う。

(寺田委員)

- ・全国の自治体に先駆けて分野横断型のマスタープランを限られた時間で作り上げたことが、他の自治体のスタンダードにもなっていくように、このプロセス自体も共有されていくと良い。自然環境にせよ、オープンスペースにせよ、他の分野の皆さんと議論しないと実効性のあるビジョンにならない。このようなやり方は、オンラインだから実現できた側面もあるように思うが、そういう意味でも先進

的であり、スタンダードになっていけば他の自治体でも良い計画ができると考えている。

- ・マスタープランの最後にあるコンテンツ編は、ビジョンを受けて各分野や各地域で具体案を作って位置づけるものだが、ここがオープンエンドになっていてマスタープランに加えられていく構成になっているのも良いと思った。計画を作って固定的になるのではなく、実現に向けてアップデートしていくというのはマスタープランの考え方として新しいことだと思う。コンテンツをどういう方針でアップデートして公開し、進捗をどう示していくかは委員会が終わってからの課題だと思うが、町田市の計画検討に幾つか参加させていただいているので、そこにも貢献できればと思う。

(葉袋委員)

- ・今までで初めてと思うくらい、丁寧に作られていると思った。多くの部署とコンサルタントの方が関わって綿密に調整されており、そういうところに関わらせていただいて有難く思う。町田市のためにも将来が良くなる要素をたくさん含んでいると思う。
- ・道路を豊かにつくっていくということについて、ウォークアブル以上に、日本ではあまり行われていないことまで文章の間に提案しているが、それが実現できれば凄いことだと思うので、担い手をどうしていくか、制度をどう使っていくか、例えば特区を使ってチャレンジするというようなことも含めてご検討いただき、できる範囲であれば関わらせていただければと思う。

(岡村委員)

- ・交通については、マスタープランの色々な部分に関わってくるので、こういう形で位置づけられたことが重要である。
- ・今後、自転車のネットワークの計画や地域公共交通のネットワークの計画などを個々に考える中で、拠り所になるのは交通だけでない全体のマスタープランである。徒歩なども含めて生活圏の交通計画を考えていく中で、ちゃんとその拠り所に戻れるように運用していくことが重要だと思う。

(村山委員)

- ・4つの基本計画を一度に作ったことは先端的で、大変だったと思うが、メリットもたくさんあったように思う。4つまとめたものが133頁に収まっているところも凄い。下手すると100頁が4冊という風になり、市民に親しまれないものになってしまう。今回、コンパクトに、しかしながら重要な点を押さえた良いプランになっているので、ぜひ市民の皆様に手に取っていただけるような広報の仕方を工夫して頂ければと思う。
- ・コンテンツ編がオープンエンドになっているので、これを展開していくのが次の大きな課題である。地区のまちづくりで計画を作ってマスタープランに位置づけるまでには時間が掛かると思うが、オンゴーイングの活動自体を市民にうまく共有できるように、例えばホームページ内の都市マスタープランがダウンロードできるページで、コンテンツ編については市内各地のまちづくり活動を紹介すれば、それを見て他の方が参加したり、自分の地域でやってみようと思うきっかけにもなる。そのような形でダイナミックに展開していただければと思う。

(中西委員)

- ・知的な刺激をたくさん受けた委員会になった。
- ・10年前の改定時は都市マスの分厚さに驚いたが、今回はその逆を行っており、大胆な転換ができるのは良いことである。街づくり条例を都市計画マスタープランと連動したものとして位置づけ、条例の改定にも臨んだこともなかなかできないことなので、全体としての取り組みについて称賛したい。
- ・参加して分かったことも多々ある。複数のプランをまとめるためには、共通したビジョンを作らなければならない、ビジョンの部分の議論に時間がかかることが体験的に分かった。

- ・分野別の方針が良い意味でシンプルになった。それで機能するのであれば、複数のプランをまとめているので、大幅な合理化になると思う。大変な委員会だったと思うが、それによってコストダウンできていることを期待したい。そのコストダウンが行政の運用に悪い支障が出ないことが重要なので、計画の勘所を活かしてこういったプランが活きるんだということを実証していただきたい。
- ・コンテンツ編が2頁だけというのも衝撃的だが、ここは街づくり条例が受け持つ部分であり、条例の検討にも携わった身としては、そこを期待したい。最初の1, 2発でどれくらいしっかりしたものを位置づけられるかがその後の個別のプランにも影響すると思うので、モデルケース的なプランをしつかり作って頂ければありがたい。都市計画審議会の委員としても関わるので、今後も関心を持って見させていただきたい。

(市古副委員長)

- ・副委員長として十分な役目を果たせたか恥ずかしいところも多々あるが、良いものができたと思う。
- ・災害リスクや防災・復興という点では、現行の都市計画マスタープランと比べてスリムになり、防災がそれぞれの施策の中に不可分なものとして組み込まれたことは大事なチャレンジだと思う。チャレンジと言うからには今後も見守っていきたい。
- ・2008年から町田市自主防災組織リーダー講座をお手伝いしており、工学院大学と都立大学と国士舘大学の3つの大学でサポートしていく枠組みで、今年度も継続している。今年度は災害時要配慮者の個別避難計画が法改正で努力義務化されたこともあり、要配慮者や要支援者にフォーカスしようと取り組んでいる。都市計画マスタープランの中でも、個別避難をする場としての地域サロンや、学校まで行く途中の空家・空き地・空き部屋の活用など、地域防災の立場というより、それぞれの地域コミュニティの方と一緒にサポートしていければと思う。そのような項目について、コンテンツ編に掲載されるようなことにも取り組んでいきたい。
- ・気候変動に伴うカーボンニュートラル、ゼロエミッションの話は待ったなしで、国としても2050カーボンニュートラルを打ち出した。町田市の計画は2040年で、官民挙げて2050年に向けてスピードが上がる中で、気候変動適応に向けてもう一度バージョンアップすることが求められると思うが、今回のマスタープランをたたき台にして、グリーンインフラや交通など、そういった方向に伸びていけるのではないかと思う。

(2) 議論の総括

(野澤委員長)

- ・総じて、これをもとにどう具体化し、実効性のある施策に結びつけていくかということが突き付けられたと理解した。街づくり条例と連動してコンテンツ編が増えていくはずだということに期待してウォッチしているということもご意見としていただいた。
- ・内容がスリムになってチャレンジングなこともやってきた。今後、行政職員が人事異動したからといってその思いが伝わらないのでは済まされないので、マスタープランとしてドキュメントに書かれていることと、その行間にあることをきちんと引き継いでいく必要があるという思いを新たにしたい。
- ・途中で議論になった「かたち」と「つくり」の話は、寺田委員からチャットで「まちの“暮らしと場”」と「まちの“拠点と軸”」と具体的に書いたほうが良いのではないかとご提案をいただいているので、それをもとに事務局と相談して調整させていただきたいと思う。
- ・去年の3月にこの委員会がスタートして、ずっとコロナの中で議論をして、殆ど対面せずに議論してきた。その良さがあったのではないかというお話もあったが、中々難しいところでの委員会で、皆さ

んから活発にご意見いただき、ここまでたどり着くことができたことに改めて御礼申し上げたい。

- ・来月の都市計画審議会に最終の報告をする。昨年11月の中間報告は市古副委員長にお願いしたが、その後の議論の経過の説明、暮らしに焦点を当てた都市構造、分野横断型を意識した施策の体系、プロジェクトについて主に説明していきたい。市古副委員長、中西委員、葉袋委員は都市計画審議会の委員でもあるので、当日はフォローしていただきたい。

●閉会

(事務局・萩野部長)

- ・2020年3月の第1回から本日の第9回まで、1年4ヶ月にわたり、活発なご議論をいただいたことに改めて感謝申し上げます。4つの計画を1つのマスタープランとしてまとめ、これまでのつくりを変えるという、市としても新しい試みであるが、委員の皆様のおかげでここまでまとめることができた。来年3月の策定・公表に向けて市としても取り組んでまいりたい。委員の皆様におかれましては、これまでありがとうございました。

(野澤委員長)

- ・皆様のご協力でようやくここまでたどり着いた。出来上がったマスタープランは、立派なものができたねと言って倉庫にしまわず、それをどう実現していくか10年、20年取り組んでいくことに行政として責任がある。
- ・町田市はやる気のある職員がたくさんいらっしやり、このような新しい取り組みをされたことで私自身もいい経験ができたことに感謝したい。非常に楽しい議論をさせていただき、色々な専門の先生方、事業者さん、市民の方と意見交換できて良かった。1年半、コロナ禍の中、皆様のご協力のもと委員長を務めることができ、感謝申し上げたい。以上を以ってこの特別委員会を閉会する。

以 上